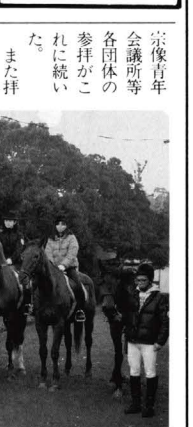




毎月十五日発行
宗像大社 社会
電話 0940-62-1311 等
定価 一年送料共 1000円

神具・装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡店 福岡市博多区東公園二丁目三十一番(812)
電話 0940-531945
本店 福岡市下京区油小路六条北入(800)
電話 京都(075) 334-1334



宗像青年
会議所等
各団体の
参拝がこ
れに続い
た。

平成の初春に祈る人々

更なる飛躍を願って

平成元年大晦日の午後十時三十分、宗像大社拝殿前の神門が神職によって重々しく閉じられた。神門前広場の真ん中に、参道石畳の余の鉄の篝火台が設けられ、庭燎が大きく燃え、火炎がゆらめき夜空に鮮やかに舞上った。この庭燎を中心とした参拝者が元日を迎える人々で満杯である。

平成二年一月一日午前〇時、本殿大太鼓が神域に響き渡り、警備に当たった消防団員と神職により折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、



平成元年大晦日の午後十時三十分、宗像大社拝殿前の神門が神職によって重々しく閉じられた。神門前広場の真ん中に、参道石畳の余の鉄の篝火台が設けられ、庭燎が大きく燃え、火炎がゆらめき夜空に鮮やかに舞上った。この庭燎を中心とした参拝者が元日を迎える人々で満杯である。



折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

新しい年を迎え、諒闇が明け、昭和天皇の御聖徳を懐びながら、今上陛下の大御心を拝し、皇室を中心とするこの国を揺るぎないものとして守り伝えるべきという思いが、こみ上げられてくる。

御大典の年という意義ある年に、斯界が果すべき役割については触れるまでもないが、多年にわたって地道に取り組んで来た国民精神振興運動をこの際積極的に展開することが必要で、民族の歴史や伝統を通じての戦後体制の見直しと、国民的共感を高める奉祝行事や記念事業の推進に力を注がなければならない。

最近の東欧諸国にみられる一連の自由化・民主化の動きは、激動の時代を告げるものとして注目されているが、その影響はアジアにも及ぶものではないかと心配する向きもある。しかし、

経済情勢の深刻さは想像以上のようである。ベレストロイカを進めているソ連の同盟諸国への援助が思うように行かないことも不安材料の一つであるが、経済的に行き詰まりと、イデオロギーと

歴史的背景や社会構造、政治や経済的条件の違いから、直ちにその影響を受けることは考えられない。

日本のODA(政府開発援助)は増大するばかりで、アジアでは公共投資の七の〇を占めるに依存している国々であるという。海部首相の新春閣々の訪欧も派手な経済外交だけに終わらなければよいが、東欧支援の姿勢を打ち出すだけではあまりにも主体性がなく、と言わざるを得ない。

総選挙を目前に控えた各党の戦術戦略は、相も変わらぬ政治理念の乏しさを窺わせる。マスコミが煽るリクルーメント事件以来の風潮は、政治が事件を解決するものではなく、事件が政治を振り回すものになったおそれがある。と指摘した先賢のあったことを思い出させる。

揺るぎなき国ぶり

平成元年大晦日の午後十時三十分、宗像大社拝殿前の神門が神職によって重々しく閉じられた。神門前広場の真ん中に、参道石畳の余の鉄の篝火台が設けられ、庭燎が大きく燃え、火炎がゆらめき夜空に鮮やかに舞上った。この庭燎を中心とした参拝者が元日を迎える人々で満杯である。

平成二年一月一日午前〇時、本殿大太鼓が神域に響き渡り、警備に当たった消防団員と神職により折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

折願が執行され、(株)JR九州社長石井孝孝氏他役員三十八名が昇殿、平成二年の交通安全を願って敬虔な祈りが捧げられた。この後、

三四四回 宗像大社歌会詠草
中村 吾郎 選
毎月末日 切

田熊 驚頭かつ代
海苔舟の出でゆく音か霜凍
の深夜の闇を貫きて聞ゆる
(評) 霜凍の深夜を出てゆく
海苔舟への思いを詩情高
く詠み下されて一分の隙も
ない。勝れた歌である。

香 椎 桜井 ツ子
向ひ団地の保安燈が時を
明らかにす群をわたる風のお
り

(評) 驚頭さんの歌が聴覚
の動なら此の歌は視覚の静
だ。燈は動かす木が風に動
いている。時折がそれ。

八幡東 江口 妙子
細のち子供の声に飛ぶは一
勢にたの空高く飛ぶは一
(評) 子供供の甲高い声に
かされた雀たち。普通の事
を普通に、街に歌って
思いが残る。歌は様さま。

曲 天野トモエ
目の芽えて年賀状の思ひ
をり歳重ねの一首首びて消
えず

東郷 藤崎 辰子
この朝の霜に凍てたる草花
の稚き苗に息吹きさまの川柳
出水にまぎさまの川柳

自由ヶ丘 後藤 君代
遠ければ逢ふことのかき
入と思ひ庭の椿の紅き見て
をり

深田 中野 節子
凌へたる心字池の今日戻り
来し緋鯉魚の列は乱れず

武丸 中村つき
餌持て湖畔に立ては白鳥
ら羽光らせて数多寄り来る

八幡東 大塚ミヤ子
炊きたての飯に白米の漬物
をうましく食みし若き日思
ふ

鐘崎 安永 久子
四十年住めば親しき界隈も
若き人等の代となりゆく

小倉北 松本 政子
霧晴る湯の里ゆけば秋景
菊香なき朝を輝きて咲く

吉留 高山 信子
わが作る大根芋とけるま
で炊きて持ち行く歯のなき
友へ

河東 薄 かほる
街灯を過ぐれば伸びる影法
師われば足早に追いつきてゆ
く

原町 八波 五月
シクラメンの朱の鉢一つ枕
辺に年迎ふ日も夫は病み伏
す

田久 立花 勇雄
梅牡丹菊に椿と眺めし暮
れの庭に春恋ひて待つ

八幡西 川崎 ウラ
窓に見る海辺の雀群なして
つづの如く霧雨に消ゆ

戸畑 田中ハツセ
新春の静けさ部屋に歓喜す
る東風の雄叫びを聞く

徳重 石松や寿子
風邪気味の今宵は熱き湯
呑みて寝るなり幼日のこと

福岡 清原 絹代
飛躍よりの合掌造りに煤け
たる米搗機ありジャンロ目
シムも

池田 小田しめ
鎮魂の歌は澄みたる空に消
ゆ法師の静けさの中

小倉北 藤原 静子
風邪ひきの孫の食欲みなさ
んと夕餉の献立考えつ買ふ

八幡西 山田 耕子
冬至には相応じかぬ暖か
さ庭の白梅花芽ふらふら

大島 目原 節子
朝西映せる河口ゆるやかに
カイツブリ二羽波立てす浮
く

大島 屋形トミエ
心重き今日一日も過ぎん
とす活ける松に水差し添
へる

古式祭 齋行

鎮火祭 齋行



十二月十五日早朝「神部宗像」の新嘗祭にあたる古式祭が齋行された。例年ならば寒気の厳しい中齋行されるが、本年は暖冬の為曇天ながらも近年にない暖かさの中で執り行われた。当日午前六時、晩闇の静かな神域に斎館玄關の太鼓が鳴り響き、宮司以下の祭員と参列者が本殿へと参進した。

神前には九年母、菱餅等で調理された特殊神饌や江口の浜より上るゲバサモという漁獲が供えられた。薄暗い拝殿に神職が着座した後、本年の豊穰と神恩感謝を告げる祝詞が養父宮司より奏上され、古歌が奉唱。玉串拝礼と続いて祭典

献米奉告祭齋行

五穀豊穣を感謝し

新春の一月十三日、午前十一時より本殿にて、恒例の献米奉告祭が厳肅裡に齋行された。

この献米奉告祭は、去る十二月に宗像郡市内の氏子の方々より奉献戴いた新米を御神前にお供えし、昨年の五穀豊穣を始め私達の暮しをお護り戴いた神恩に感謝するとともに、この新しい年の五穀豊穣、無病災、家内安全を祈念申し上げる祭典である。

当日は早朝より気温が下がり、正月三ヶ日からの厳しい寒さとなったが、氏子会長を始め氏子・崇敬者多数参列の下、祭典が執り

行われた。

養父宮司の神恩感謝・神徳祭揚の祝詞に続き、氏子の代表である奉幣使により祭詞が奏上された。

奉幣使は本祭典と春・秋の両大祭、年間計三回氏子の代表が選出され奉仕を行うもので、今回は玄海町池野校区の評議員安部敬二氏が選ばれ、祭典前日より齋館に於て齋泊を行い、心身を浄め祭典に臨まれた。

宮司以下崇敬者各位が玉串拝礼を行い、敬虔な祈り引き続き会場を清明殿に移し、恒例の鏡開きが行われた。



十二月十五日早朝「神部宗像」の新嘗祭にあたる古式祭が齋行された。

は滞りなく齋行された。祭典終了後、田島地区の当番班である山下班の奉仕により清明殿に於て「お座」が齋行された。

早朝より多数の参列者が集い午前六時三十分より一番座から五番座まで齋行された。この「お座」は「延命招福」の集いとも言われるが、氏神様と共に一年の喜びを分かちあい「神人相楽」を共にする事に本来の目的がある。お座の御膳には「はしめ」の儀を行い、火を掌る廻具土（かづち）皿、煮つけ一皿、神酒、忌口へ、火鎮の業を示すと共に、郡内の火災絶無と消防団関係者の業務安全を祈った。

つづいて午前十時より鎮火祭が齋行された。早朝の雨がその様に晴れ上がり、警察関係者、氏子代表等約五十名の参列があった。

祭典では養父宮司以下二名の神職が古式に則り火鎮（はしめ）の儀を行い、火を掌る廻具土（かづち）皿、煮つけ一皿、神酒、忌口へ、火鎮の業を示すと共に、郡内の火災絶無と消防団関係者の業務安全を祈った。

節分祭 齋行

悪鬼邪鬼を追い払う



暦の上で、冬の節が終わる春の節に移り変わる二月三日、昨日からの雨もあがった午前十時より、当社社祈願殿に於て、恒例の節分祭が厳肅裡に齋行された。古くは、宮中に於て十二月晦日の行事だった追儺が、



十二月十五日早朝「神部宗像」の新嘗祭にあたる古式祭が齋行された。

定期十時 養父宮司以下神職、参列者が所定の座に着座し祭典開始。祝詞奏上の後、宮司、河野氏子会長以下宗像郡市知名士、玄海幼稚園児代表が次々に玉串を捧げ、各々平成二年の厄除開運を祈念した。

引き続き祈願殿前庭に移り、神職二名が鑼、桃弓をたずさえて右階に進み、一名は東北、一名は西南の方向に向い、天空・地上を三度射て邪気を祓い清めた。次に、神職、崇敬者の中

室町時代以降節分の日に限り、春の節に移り変わる二月三日、昨日からの雨もあがった午前十時より、当社社祈願殿に於て、恒例の節分祭が厳肅裡に齋行された。古くは、宮中に於て十二月晦日の行事だった追儺が、

三十六歌仙扁額(西) 宗像大社の「州信」印三十六歌仙扁額

黒田 泰三

本稿では前に、狩野松榮かその周辺の絵師の制作と想定される多賀大社本より新し「天正十八年(一五九〇)の宗像大社本が古様ながらもつことを指摘したが、その古様を狩野光信若年における元信・松榮に結びつける保守的な画風と理解することも可能であろう。しかし反面、前述したように本歌仙絵にはすぐれた描線のリズム感と色彩感覚の新しさがある。単なる古様だけではなく、絵師の創作がそこに認められる。

復古と創作面をもちえた総師として、おそらく光信はふさわしい。桃山時代後期の狩野派の統廃として光信は、父水徳の蒙蔽さとは反対の積極的な意識をもった、時には元信の古い様式に近づくこともあった。それは時代の要求でもあった資料一年表

狩野水徳および一門関連 宗像大社関連およびその他

天文二二 一五四三 正月、永徳、狩野松榮の嫡子として山城国(京都府)に生まれる。

一一三 一五四四 永徳の弟、宗秀生る。

一一〇 一五五一 元信に連れられて將軍義輝に伺候する。

一一二 一五五三 五月四日、元信が石山本願寺で最後の作画を行った折に、松榮、墨絵屏風を描く。(証如上日記)

弘治 三 一五五七 四月二十四日、宗像大社近津宮第・宮本殿内陣より出火。神職・拝殿・境内の殿舎炎上。(宗像第一宮堂遺札)

永祿 二 一五五九 十月六日、元信歿(八十四歳)。(画工譜略)

六 一五六三 四月二十八日、松榮、「仏涅繁図」(大徳寺)を描く。(宮眼仏事記)

七 一五六四 正月、將軍義輝、久我晴通および聖護院道増を遣し、毛利元就と大友宗景とを和せしむ。(立花文書、吉川家文書)

八月三日、聖護院道増、宗像氏貞に大刀一腰を贈る。(宗像大社文書)

十二月十二日、聖護院道増、氏貞に書を贈り津屋崎沖にて遭難せる宗像船の返還を請う。(宗像大社文書)

年	号	宗像大社関連およびその他
天文二二	一五四三	正月、永徳、狩野松榮の嫡子として山城国(京都府)に生まれる。
一一三	一五四四	永徳の弟、宗秀生る。
一一〇	一五五一	元信に連れられて將軍義輝に伺候する。
一一二	一五五三	五月四日、元信が石山本願寺で最後の作画を行った折に、松榮、墨絵屏風を描く。(証如上日記)
弘治 三	一五五七	四月二十四日、宗像大社近津宮第・宮本殿内陣より出火。神職・拝殿・境内の殿舎炎上。(宗像第一宮堂遺札)
永祿 二	一五五九	十月六日、元信歿(八十四歳)。(画工譜略)
六	一五六三	四月二十八日、松榮、「仏涅繁図」(大徳寺)を描く。(宮眼仏事記)
七	一五六四	正月、將軍義輝、久我晴通および聖護院道増を遣し、毛利元就と大友宗景とを和せしむ。(立花文書、吉川家文書)
		八月三日、聖護院道増、宗像氏貞に大刀一腰を贈る。(宗像大社文書)
		十二月十二日、聖護院道増、氏貞に書を贈り津屋崎沖にて遭難せる宗像船の返還を請う。(宗像大社文書)

御 札

節分祭齋行に際しましては、崇敬者の皆様方より誠心からなる御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。お蔭をもちまして、祭典も無事盛大裡に齋行致すことが出来ました。

(ここに誌面をかり、謹んで御礼申し上げますと共に、皆様方の益々の御繁栄を心より祈念申し上げます。)

平成二年二月吉日 宗像大社 社務所 各位

第三十三回

宗像マラソン大会

―初春の宗像路で八百余名が力走―



ジョギングに始まり駅伝競走、またマラソン大会等と長距離陸上競技が華やかな昨今、その草莽的存在である「宗像マラソン大会」が、寒風肌刺す一月二十一日(日)、多くの参拝者で賑う当社御社頭に於て開催された。

- 今年で三十三回目を迎えたこの大会には、最近のブームを反映して例年多数のランナーが参加しているが、本年も都市内を始め県内外の走ろう会や陸上クラブ、或は大学・高校・中学校の陸上部等から約八百名が参加し、初春の宗像路で健脚を競った。
- この大会は10kmの部と5kmの部(男子一般・学生、男子高校生・男子中学生、女子一般・学生、健康マラソン)の二部六種目で行われ、
- 5kmの部
 - 一位有馬 賢吉(篠栗中)
 - 二位下司 正史(梅林中)
 - 三位川田 久幸(稲屋東中)
 - 四位大庭 恵一(宗像高)
 - 五位古賀 慎也(九国大附属高)
 - 10kmの部
 - 一位岸 俊幸(アサヒビ)
 - 二位一瀬 雄彦(福教大)
 - 三位横大路 智祝(古賀マラソン)
 - 四位 31分03秒

激動の時代 いま一度我が街「むなかた」を見詰め直そう

社団法人宗像青年会議所

理事長 森 正彦



今、世界は目まぐるしい早さで変化しています。東欧社会の政治改革、又ソ連の複数政党への移行等、二十一世紀を目前にして、政治的新たな地殻変動が起ころうとしています。これに対し、

日本は、保守逆転等と言われながら国を揺がす程の政治不安は存在せず、自由主義社会の一員として、世界一豊かな国と言われています。しかしながら、私達の住む宗像を顧みますと、福北大都市圏構想、玄海レクリエーション構想、北九州学園都市構想等開発計画が目白押しです。その結果、各地でゴルフ場の新設や、リゾートマンション建設等が相次ぎ、一部では急激な地

価の上昇を仰いでいます。しかもこの事は、他の地域でも同様なのです。道州制とか地方分権等、既存の中央集権の概念を越え、今、地方が語られる時代が来ている。しかし「地方の時代」と呼ばれて年月が経ちましたが、東京一極集中に改善は見られず、その度合はむしろ強くなるばかりです。「地方の時代」とは、力のある地方の時代なのか、

れ、祈願殿前でお祝いを受けた選手達は、午前十時の健康マラソンの部を皮切りに各部門が、正面第一鳥居前をスタート、大駐車場前のゴール迄の5km・10kmの区間を、道沿を理めた応援団の声援を受けながら力走した。

尚各部門の入賞者・記録は左記の通りである。

中学生の部
一位有馬 賢吉(篠栗中) 16分01秒
二位下司 正史(梅林中) 16分02秒
三位川田 久幸(稲屋東中) 16分26秒

高校生の部
一位大庭 恵一(宗像高) 16分55秒
二位古賀 慎也(九国大附属高) 16分07秒
三位森島 星士郎(九国大附属高) 16分14秒

一般・学生の部
一位吉住 康夫(北九州R) 15分42秒

二位湖上 英彦(県警第一機動隊) 15分47秒
三位 孝行(稲屋陸協) 15分50秒

女子の部
一位後藤 由華子(筑紫女学園高) 16分58秒
二位下司 則子(筑紫女学園高) 17分05秒
三位安武 正美(筑紫女学園高) 17分50秒

健康マラソンの部
一位木村 出(福岡町) 18分58秒
二位阿部 奈津美(津屋崎中) 19分25秒
三位倉元 真由美(稲屋中) 19分35秒

文化財防火デー 防火訓練

第二十三回文化財防火デー

当日の一月二十六日、当社自衛消防団(四十二名)と玄海町消防団第一分団(十四名)との合同防火訓練が行われた。

二十四日の大雪がまだ残る境内で、午前十一時半、本殿南側裏山より出火という想定で発煙筒が焚かれ、非常ベルとともに当社自衛消防団は、太田団長の指令を受け、

「八時半の男」

元巨人軍投手宮田征典氏参拝

プロ野球読売巨人軍往年の名投手宮田征典氏が、去る一月十二日令婦人を伴ない当社に参拝された。

此の度は、宗像市郡の小中学生を対象とした野球教室指導の為、元社会人野球あけぼの通商池田オーナー

を中心し、各関係者の熱い願いが叶った来福で、少年野球の盛んな宗像地方では新年から賑いを見せた。

宮田氏は群馬県前橋市の出身、昭和三十七年日本大学を卒業、当時の巨人軍川上監督に見初められ入団、九連覇に大きく貢献、三十分を指すとマウンドに立ち、鋭いカーブの絶妙なコントロールで相手打者をどろりと押しこめるピッチングは「八時半の男」として人々から愛称され、まさしく長嶋、王に続くスーパースターであった。

引退後暫く評論家として

平成二年度役員

理事長 森 正彦
直前理事長 今村 春彦
副理事長 中村 義仁
専務理事 花田 貞二
常任理事 吉田 成徳
事務局長 本田 貢
総務・広報委員長 吉賀 清和
地域開発委員長 吉武 秀和
指導力開発委員長 北原 一生
会員開発委員長 井上 邦男
例会運営委員長 井上 邦男

まつり特別委員長 権田富士男
会員拡大特別委員長 西山 茂文
日本J.C.こんな規制いらない運動推進特別委員会 吉武 生蔵
九州地区協議会しあわせ会 吉武 生蔵
イランド九州推進委員会 向 水島 勝次
福岡ブロック協議会監事 井上 重信
同J.C.運動推進特別委員会 委員 吉武 生蔵
同アカデミー出向 原田 達夫
井上 和幸
久野 和幸
田中 親宏
西山 末廣
大和 秀三

昭和三十年、文部省、消防庁の要請により、文化防火デーが制定された。この日全国の神社仏閣を中心に文化財を守ると防火訓練が行われている。

社務日誌抄

十一月一日 月次祭
十一月二日 出光光友会清水氏外四名参拝
十一月三日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月四日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月五日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月六日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月七日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月八日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月九日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十一日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十二日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十三日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十四日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十五日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十六日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十七日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十八日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月十九日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十一日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十二日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十三日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十四日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十五日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十六日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十七日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十八日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月二十九日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝
十一月三十日 出光興産(株)田比正彦様社務参拝

野球を見つめたが、昭和五十年長嶋茂氏が巨人軍監督に就任するや、信望の厚かった宮田氏は投手コーチとして入団、以来日本ハム、西武のコーチを歴任、昭和六十一年から再度、巨人軍のコーチを務める。

根気よく丁寧な指導方法が説得力があり、特に現役時代抑えのエアースであっただけに、一球の大切さ、打者のと駆け引き等、単に投球のだけでなく、考えや野球の得意な数少ない人材と

野球の評論は高い、今回の野球教室が、健全なる青少年育成の一助となる事を祈ると共に、宮田氏のまたの来福を願っています。

林靖典氏・同国税審査官齋藤後行氏・福岡国税不服審判所長西崎毅氏参拝
心志池清掃除糞養魚組合・内田大智様参拝
鳥栖市内田秀哉氏参拝
十一月七日 出光石油化学(株)福岡支社神職参拝
神島権輔様外神職一名
出向奉仕
十一月八日 正月祭関係四者会談
十一月九日 齋藤氏外一名参拝
十一月十三日 出光興産(株)名古屋油槽所宗像神社還座祭・山田権輔様外神職一名出向奉仕
十一月十五日 古式祭・鎮火祭
出光興産(株)中央訓練所長齋藤三氏・同販売訓練課長深澤氏外二名参拝
福北懇談会九州電力(株)渡辺社長・福岡銀行荒木頭取・西日本鉄道(株)大屋社長・井筒屋小野社長・TOTO古賀社長外一行並宗像市浦口市長来社
十一月十六日 米国コロンビア大学教授リチャード・ヒアンソン氏・ワシントン・シヤーク美術館長ス・サン・アイロビ氏・同アシスタントアン山山氏参拝
宗像大社御花会二役会
十一月十八日 一の宮市報物館中山事務局長来社
十一月十九日 松尾神社祭
北筑浦津氏氏組員参列
十一月二十日 (株)新出光総務課長福山氏外一名来社
十一月二十一日 玄海町消防団第一分団正月祭警備打ち合せ会議
十一月二十三日 天長祭
十一月二十五日 地九代・協力会正月祭準備奉仕
十一月三十一日 大祓式・除夜祭
(次ページへ続く)



消防団品川固長より講習を受け訓練を終えた。

この後、巫女を対象に消火器の上手な使い方指導を受け、境内空地で実際に火を消し、万に備えた。

文化防火デーは、昭和二十四年一月二十六日、法隆寺堂の炎上を反省し、

消防団品川固長より講習を受け訓練を終えた。

この後、巫女を対象に消火器の上手な使い方指導を受け、境内空地で実際に火を消し、万に備えた。

文化防火デーは、昭和二十四年一月二十六日、法隆寺堂の炎上を反省し、

消防団品川固長より講習を受け訓練を終えた。

この後、巫女を対象に消火器の上手な使い方指導を受け、境内空地で実際に火を消し、万に備えた。

文化防火デーは、昭和二十四年一月二十六日、法隆寺堂の炎上を反省し、

消防団品川固長より講習を受け訓練を終えた。

この後、巫女を対象に消火器の上手な使い方指導を受け、境内空地で実際に火を消し、万に備えた。

文化防火デーは、昭和二十四年一月二十六日、法隆寺堂の炎上を反省し、

消防団品川固長より講習を受け訓練を終えた。

この後、巫女を対象に消火器の上手な使い方指導を受け、境内空地で実際に火を消し、万に備えた。

文化防火デーは、昭和二十四年一月二十六日、法隆寺堂の炎上を反省し、

宗像大社歌会
俳句作品集(三)

若松 井手 清隆
初雀すてに新居の屋根に啼く

福間 広渡一寿軒
腰曲けて寿命極くや臥龍梅

福間 森 清
盗み酒して子を待てり大晦

福岡中央 丸九 玄風
書く賀状年ごと減りて吾老

田熊 安部 ゆき
起きしふる八十路朝霜かか

津屋崎 井浦 良介
書達磨もみじの様な掌も加

池田 小田しめ
白梅の色褪せ見ゆる今朝の

藤沢 井上 玄洋
背を曲けて這登りけり恵方

日里 花田いつえ
冬ざれの蠅涙一筋阿弥陀堂

津屋崎 西住喜三郎
寒禽のつばみしものアイ

田熊 丸九 一郎
米舟越え百えの道の初御空



(続)
淡の寄物

43

能登の漂着神(五)



出来れば多くの人に観ていただき「海からのメッセージ」を聞いてもらえればと思つて、今回は、全約十三ヶ所を数える。今回は、福岡市博多区在住の中西弘氏は、宗像郡津屋崎町曾根鼻付近の、ほとんど一ヶ所だけで採集された陶磁片は、44×35センチ、厚さ5センチの木箱で、二五箱にまたがって約二千点に達している。

この地は、お米や臨濟神を伝えた采西ゆかりの地である。曹興寺も東西と深いつながりがある。また勝福寺は二六〇年から一三六〇年に開山されて開山されてから、勝福寺の西の砂丘から、墓地が

この地は、お米や臨濟神を伝えた采西ゆかりの地である。曹興寺も東西と深いつながりがある。また勝福寺は二六〇年から一三六〇年に開山されて開山されてから、勝福寺の西の砂丘から、墓地が

この地は、お米や臨濟神を伝えた采西ゆかりの地である。曹興寺も東西と深いつながりがある。また勝福寺は二六〇年から一三六〇年に開山されて開山されてから、勝福寺の西の砂丘から、墓地が

この地は、お米や臨濟神を伝えた采西ゆかりの地である。曹興寺も東西と深いつながりがある。また勝福寺は二六〇年から一三六〇年に開山されて開山されてから、勝福寺の西の砂丘から、墓地が

宗像大社沖ノ島
沖津宮現地大祭参拝記(三)

田川市稲荷町 寺崎 福美

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。

この日本海々戦を沖ノ島から観戦した、当時の神職宗像繁丸氏と使夫佐藤市五郎少年(十八才)の日誌が宗像大社の神宝館に展示されている。それは海戦の様子が生々として表現されている。ここで少し日本海々戦を振り返ってみたい。